議案第３２号

文化財の県指定について

１　提案理由

令和５年１２月１８日に、石川県文化財保護審議会から文化財の県指定について答申があったため

２　指定する文化財

・粟崎八幡神社奉納船絵馬

（１）種　別　有形民俗文化財

（２）名　称　粟崎八幡神社奉納船絵馬

（３）員　数　１４点

（４）所在地　金沢市粟崎町へ４９

（５）所有者　宗教法人　粟崎八幡神社

・剱地八幡神社奉納船絵馬

（１）種　別　有形民俗文化財

（２）名　称　剱地八幡神社奉納船絵馬

（３）員　数　４２点

（４）所在地　輪島市門前町剱地レ１３６

（５）所有者　宗教法人　剱地八幡神社、剱地区

３　指定日

告示日

あわがさきはちまんじんじゃほうのうふな え　ま
粟崎八幡神社奉納船絵馬

１	種　　別	有形民俗文化財
２	名称及び員数	粟崎八幡神社奉納船絵馬　１４点
３	所　在　地	金沢市粟崎町へ４９
４	所　有　者	宗教法人　粟崎八幡神社
５	年　　代	江戸時代～明治時代
６	指 定 理 由	豪商木谷藤右衛門を輩出する等、海運との関係が深い金沢市粟崎地区において、航海の安全祈願等のため、江戸時代後半から明治時代前半にかけ奉納された船絵馬。県下の海運と関わりの深い地域の特色をよく示し、その信仰・習俗を理解する上で重要な資料であり、船の表現等の精緻さや粟崎一帯の風景の描写も特筆される。 （詳細は次ページのとおり）
７	図面・写真等	７～８ページのとおり

指定理由

金沢市の北部、河北潟と日本海を結ぶ大野川の右岸河口近くから海浜部にかけて位置する粟崎地区は、江戸時代に豪商の木谷藤右衛門を輩出する等、海運との関係が深い地域であり、鎮守である粟崎八幡神社には船絵馬１４点等が奉納され、大切に保管されている。

船絵馬は、船主や船頭等が、航海の安全を祈願ないし感謝し、あるいは船の新造を祝し、ゆかりの寺社に奉納したものである。その絵柄は西廻り航路を往来した商船、いわゆる北前船１艘の帆走する姿を側面から描いたものを主体とする。

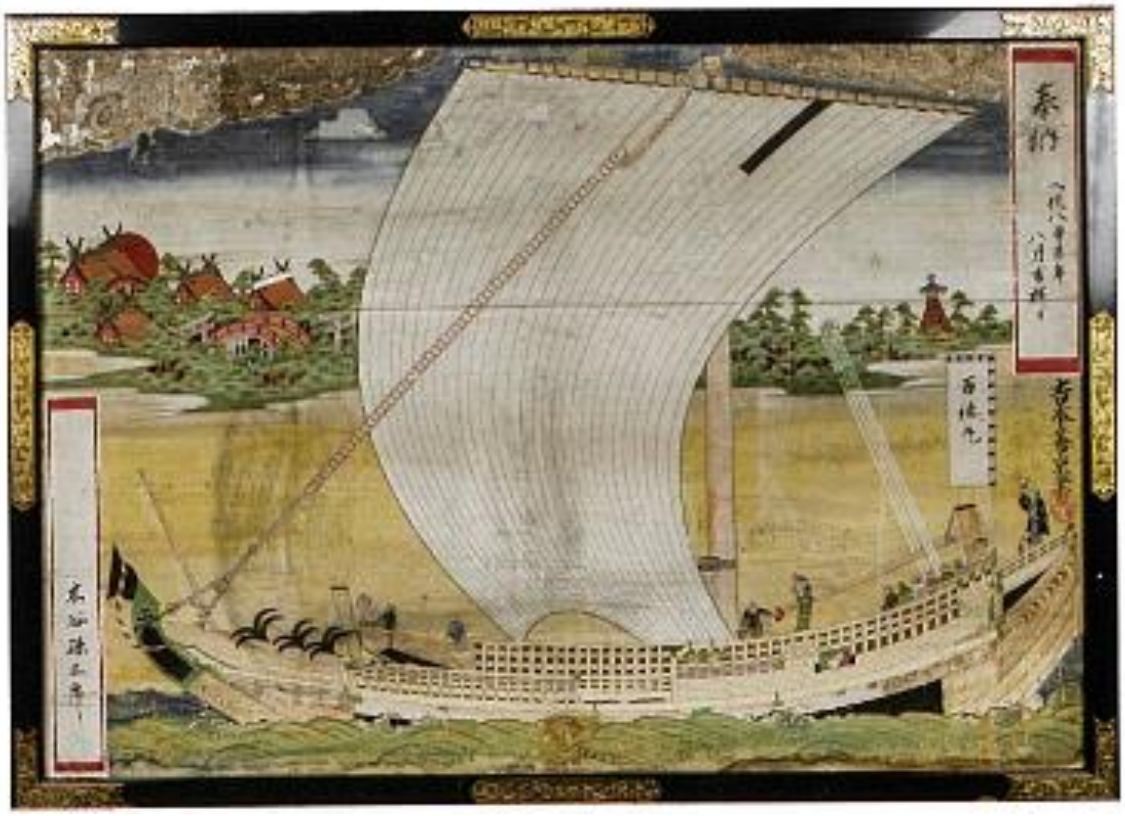
粟崎八幡神社の船絵馬は、文化８（１８１１）年から明治９（１８７６）年にかけての年代が記されており、江戸時代後半から明治時代前半にかけて奉納されている。奉納者は１４点のうち長大な３点を含む７点が木谷家であり、往時の繁栄を物語る。製作者は９点が判明しており、その多くは北前船が出航・帰港する大坂の絵師である。絵柄は前述の他、船を正面から描いたものや、数艘の船を描いたものもある。船の喫水線や装備の書き分けによる積荷の状況の表現等は精緻であり、粟崎の一帯の風景を活動する人物等も含めた描写は風俗画としても注目に値する。

これらの奉納船絵馬は、県下の海運と関わりが深い地域の特色をよく示している。特にその信仰・習俗を理解する上で欠くことができない資料として貴重であり、有形民俗文化財に指定し、その保存を図るものである。

別 添

粟崎八幡神社位置図

粟崎七つ山（文化 14(1817) 年）



万徳丸（文化8(1811)年）

萬全丸（慶応 2(1866)年）

つるぎじはちまんじんじゃほうのうふな え　ま
剱地八幡神社奉納船絵馬

１	種　　別	有形民俗文化財
２	名称及び員数	剱地八幡神社奉納船絵馬　４２点
３	所　在　地	輪島市門前町剱地レ１３６
４	所　有　者	宗教法人　剱地八幡神社、剱地区
５	年　　代	江戸時代～明治時代
６	指 定 理 由	北前船に携わった船主や船頭等が多く居住した輪島市剱地地区において、航海の安全祈願等のため、江戸時代後半から明治時代前半にかけ奉納された船絵馬。県下の海運と関わりの深い地域の特色をよく示し、その信仰・習俗を理解する上で重要な資料であり、能登において最も点数が多く、長期間の連綿とした奉納物であることが特筆される。 （詳細は次ページのとおり）
７	図面・写真等	１１～１２ページのとおり

指定理由

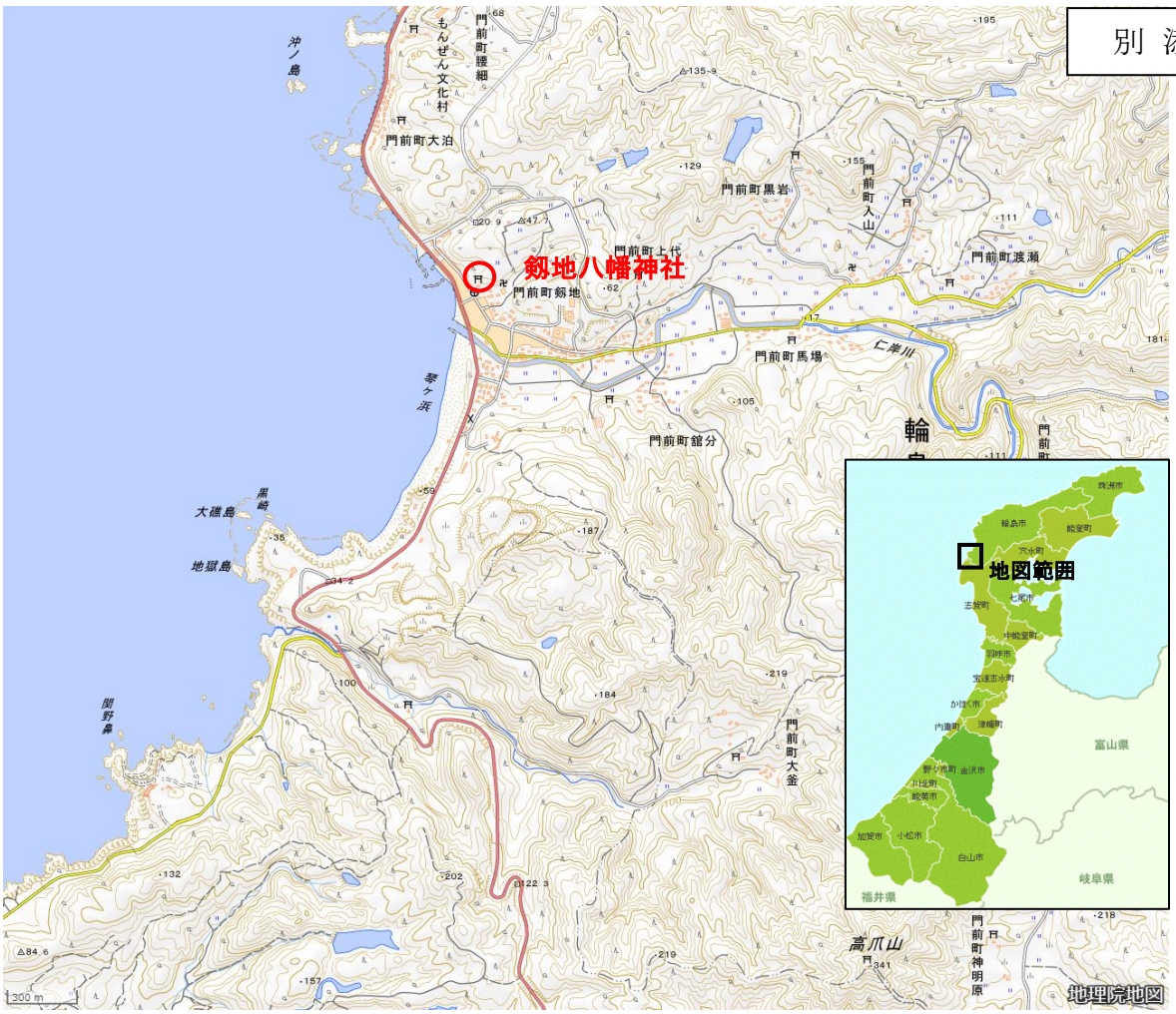
輪島市の北西端の海岸沿いに位置する剱地地区は、江戸時代後半から明治時代中頃にかけて西廻り航路を往来した商船、いわゆる北前船に携わった人が多く居住し、鎮守である剱地八幡神社には往時の船主や船頭等が、航海の安全を祈願ないし感謝し、あるいは船の新造の祝い等の折々に奉納した船絵馬４２点が伝わっている。

船絵馬は文化９（１８１２）年から明治１６（１８８３）年までの年代が記されており、江戸時代後半から明治時代前半にかけて連綿と奉納されている。奉納は地元船主によるものと思料され、剱地の西屋、中嶋屋、中屋といった家名は史料にも見られる。製作者は判明しているものでは北前船が出航・帰港した大坂の絵師である。絵柄は北前船１艘の帆走する姿を側面から描いたものを主体とする他、数艘の船の図や難船図がある。

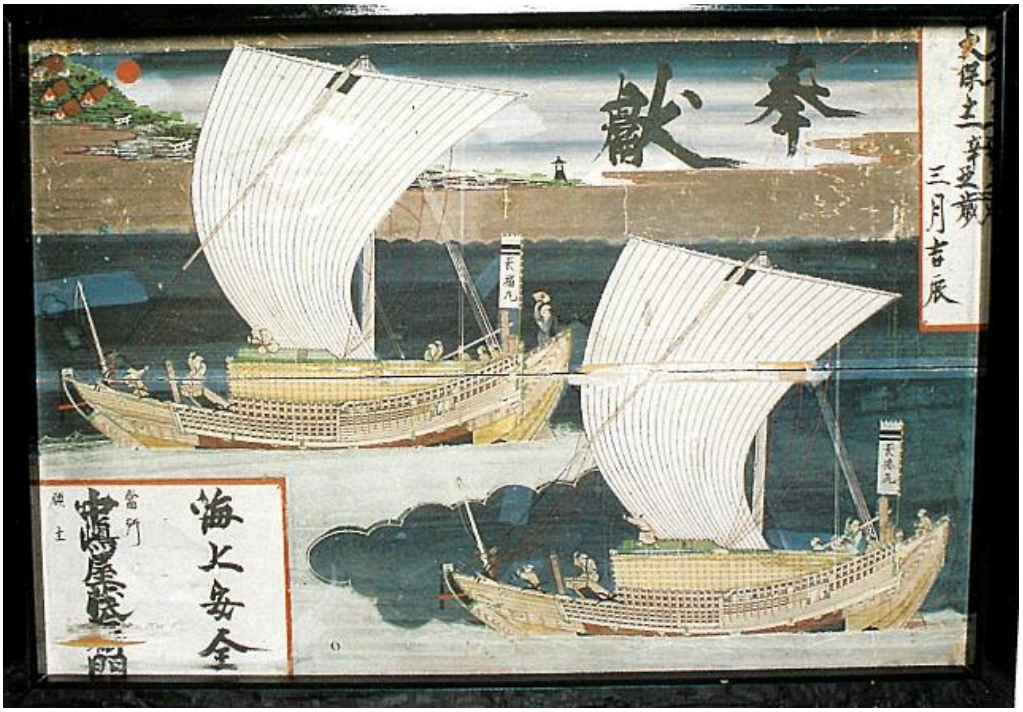
視点を広げて見ると、能登には海岸沿いに多くの集落が営まれ、地区の寺社に海運に関わる奉納物等を残す事例は多いが、剱地八幡神社奉納船絵馬はそれらと比較して点数が多く、長期間の連綿とした奉納が突出しており、特に重要である。

これらの奉納船絵馬は、県下の海運と関わりが深い地域の特色をよく示している。特にその信仰・習俗を理解する上で欠くことができない資料として貴重であり、有形民俗文化財に指定し、その保存を図るものである。

別 添



剱地八幡神社位置図



長福丸・長徳丸（天保 12(1841)年）

徳栄丸（嘉永4(1851)年）

難破船（年不明）